

以下の箇所に変更がございます。誠に申し訳ございませんが、修正をお願い申し上げます。

ページ	箇所	改訂前	改定後
4	CONE (NPO 法人自然体験活動推進協議会)とは	CONE とは、自然体験をキーワードに、全国の約 300 団体が連携しながら、自然体験活動憲章に基づいて、豊かな自然体験活動の推進と普及を行っている、わが国唯一の団体です。(CONE は“Councilfor Outdoor & Nature Experiences”の略称です。)	CONE とは、自然体験をキーワードに、全国の約 300 団体の <u>青少年育成団体、自然学校、野外教育団体、スポーツ振興団体、企業などが連携しながら自然体験活動憲章に基づき豊かな自然体験活動の推進と普及を行っている、わが国唯一のネットワーク団体です。また、文部科学省や環境省、国土交通省など国の機関の支援・協力を受け、多角的な自然体験活動を推進しています。</u> (CONE は“Councilfor Outdoor & Nature Experiences”の略称です。)
4	CONE の事業紹介 2. 安全な自然体験活動“事故ゼロ”をめざした普及啓発	楽しく、安全な自然体験活動を広く普及するために、全国で安全対策セミナーや組織管理者向けのリスクマネジャー養成などを行っています。	楽しく、安全な自然体験活動を広く普及するために、全国で安全管理者研修や組織管理者向けのリスクマネジャー養成などを行っています。
4	CONE を支えるネットワーク	CONE は国内唯一最大の指導者養成機関です。およそ 300 の青少年育成団体、自然学校、野外教育団体、スポーツ振興団体、企業などが加入して、自然体験活動を普及・振興するための広範囲なネットワークを形成しています。また、文部科学省、国土交通省など国の機関の支援・協力を受け、多角的な自然体験活動を推進します。	削除

ページ	箇所	改訂前	改定後
11	4. 法的責任	過去の裁判では、指導者の注意義務として「結果予見義務」と「結果回避義務」が <u>おもに</u> 問題にされています。	過去の裁判では、指導者の注意義務として「結果予見義務」と「結果回避義務」が <u>主に</u> 問題とされています。
14	(3) 対象者	ターゲットとなる対象者の経験、知識、能力に合わせた目的、活動内容、プログラムに <u>しまし</u> ょう。	ターゲットとなる対象者の経験、知識、能力に合わせた目的、活動内容、プログラム、 <u>最低催行人数を設定</u> します。
14	(5) スタッフ体制・組織	参加者の安全を確保し、教育効果を達成するために、十分な指導者数を確保すると共に、役割分担と指示系統を明確に <u>しまし</u> ょう。	参加者の安全を確保し、教育効果を達成するために、十分な指導者数を確保すると共に、役割分担と指示系統を明確に <u>しま</u> す。
14	(6) 指導者	プログラムに見合った知識・技術・経験と資格を持っている人を選定する必要があります。	プログラムに見合った知識や技術、経験、 <u>資格のある人</u> を選定 <u>しま</u> す。
14	(7) 場所・施設	<u>事前の下見や管理者との打ち合わせ</u> が必要です。	<u>事前確認リストを作成し現地担当者と打合せ</u> することで、 <u>事業規模や活動内容に適した環境である</u> ことを確認します。
14	(8) 用具・持ち物	指導者側が用意する用具や装備は、 <u>必ず保守点検</u> をしておきます。	指導者側が用意する用具や装備は、 <u>保守点検</u> を行い <u>記録に残</u> します。
15	(10) 参加費用	<u>費用以外に、納入方法、キャンセルの際の手続き</u> などを設定する必要があります。 <u>以上のような項目について「無理がないかどうか」十分に検討し、トラブルや安全上の問題に発展しないよう計画を立てることが大切です。</u>	<u>参加費の内訳や消費税の扱い、支払い方法、入金締切り日、キャンセルポリシー</u> 等を定め、 <u>告知方法についても詳しく計画</u> します。
15	(11) 下見	<u>实地踏査ともいい、必ず実施しなければなりません。</u> 参加者の目線を意識して、できればスタッフ全員で危険箇所のチェックを行いましょう。無理な場合は、写真や	<u>实地踏査とも呼ばれ必ず実施</u> します。 <u>企画段階、計画作成後、開始直前の3回実行し、運営に関わるスタッフ全員が参加</u> します。 <u>もし全員参加が難しい場合は、</u>

ページ	箇所	改訂前	改定後
		<u>ビデオを撮影してミーティングで伝達する方法もあるでしょう。下見の結果を反映し、必要であれば活動計画を修正しましょう。</u>	<u>写真や動画等で共有を図るなど、スタッフが当日初めて現地を知ることを無にします。</u>
15	(12) 事前説明会	特に参加者が未成年者の場合は、保護者に対して対面で実施しましょう。 <u>ポイントをいくつかあげてみましたが、資料配布以外にスライドやビデオを使ったり、サンプルを示して「視覚に訴える」と分かりやすくなります。</u>	特に参加者が未成年者の場合は、保護者に対して対面で実施します。 <u>次に示すポイントを盛りこんだ資料配布以外に、スライドやビデオを使ったり、サンプルを示して「視覚に訴える」と分かりやすくなります。</u>
15	(12) 事前説明会	この際に、参加同意書と健康調査票、その他必要事項の記入を依頼し提出してもらって、参加者の把握に努めましょう。	この際に、参加同意書と健康調査票、その他必要事項の記入を依頼し提出してもらい、参加者の把握に努めます。
16	① 気象状況の把握	最新の予報について、十分に情報収集しておきましょう。 <u>インターネットで、詳細なデータを得ることも可能です。山岳活動の場合は、過去数日間の天候の推移にも注意を払い、フィールドの状況をつかんでおきます。</u>	最新の予報について、十分に情報収集しておきます。 <u>気象庁データをはじめ、複数の検索サイトから情報を入手します。</u>
16	② 危険箇所の再確認	<u>問題があれば、参加者に分かるようにロープを張ったり、掲示を出します。さらに迂回する方法もあります。</u>	<u>下見の際に抽出した具体的なリスクに対して回避や低減の手立てを確認します。</u>
16	③ 用具や装備の確認	<u>不具合があれば、分かりやすい印をつけて、明確に区別しておきます。</u>	<u>傷や摩耗などは目視で、道具の品質は管理帳によりチェックします。</u>
16	④ 移動の際の安全管理	<u>プログラム後の移動は、特に気が緩みがちになるので要注意です。</u>	<u>移動する動線上に危険物がないか改めて確認します。</u>
16	③ 弱者への配慮	子ども、 <u>女性や高齢者</u> 、体力面で劣る参加者 <u>などへの対応に気を配ります。</u>	子どもや <u>女性、高齢者</u> 、また体力面や技術面で劣る参加者へは <u>支援が必要で公正・公平な合理的配慮に心がけます。</u>

ページ	箇所	改訂前	改定後
17→16	④心の安全	互いの気持ちを伝え合える「雰 囲気づくり」を心がけ <u>ま</u> しょう。	互いの気持ちを伝え合える「雰 囲気づくり」を心がけ <u>ま</u> す。
17	②スタッフ自身の安全と 健康管理	<u>つつい</u> 後回しになり、無理しが ちです。指導者自身が自ら戒め て、 <u>コンディションを整えてお</u> きま しょう。	<u>無理のない生活を基本に体調管 理やスタッフとしての行動規範に 努め、身だしなみにも注意する。</u>
17	(1) 評価反省(ふりかえ り)	<u>担当や活動等の項目ごとに時系 列で</u> ふりかえる。	<u>活動日程に沿ってプログラムと 指導者評価に分けて</u> ふり返り、 <u>次 回に活かすフィードバックをまと めます。</u>
17	(2) 報告書の作成	<u>写真や動画を含み活動記録や、 会計報告、アンケート集計等を盛 り込む。特別に支援を得たことへ の御礼も忘れずに。</u>	<u>活動内容や収支決算、アンケート 集計分析等を盛り込みます。</u>
17	(3) 安全管理	<u>事故の発生が生じていた場合は 内容を共有する。事故には至らな かったが「ヒヤリハット」したこと はシートに取りまとめる。</u>	<u>「ヒヤリハットシート」の内容を 共有し、インシデントやアクシデン トの有無を確認します。</u>
18	(1) 体力・運動能力	～十分な対応と <u>配慮が</u> できるよ うに準備をしておきましょう。	～十分な対応と <u>合理的配慮が必 要</u> です。
18	(2) 行動・態度	以下のような観点で、参加者を 評価 <u>し</u> てみましょう。	以下のような観点で、参加者を 評価 <u>し</u> ましょう。
19→18	(2) 行動・態度	実際の活動場面でこのような行 動・態度が見られる場合は、事故 やトラブルに発展する <u>可能性</u> が あります。参加者の行動をよく観 察することが大切です。また普段 からこのような行動を示す参加 者は、「問題傾向児」としてより注 意を注ぎ、適宜介入しながら活 動する <u>必要</u> があるでしょう。 <u>本当の意味で行動や態度の改 善を促すには、場当たりの怒っ たり、叱ったりするだけでは、変化 が期待できません。まずは、共感 する姿勢に努めながら本人の言</u>	実際の活動場面でこのような行 動・態度が見られる場合は、事故 やトラブルに発展する <u>恐れ</u> があり ます。参加者の行動をよく観察す ることが大切です。また普段から このような行動を示す参加者は、 「問題傾向児」としてより注意を 注ぎ、適宜介入しながら活動する <u>必要</u> があります。 <u>ルールやマナー、エチケットにつ いては解釈に個人差があり、都 度明確にする必要があります。具 体的には、経験値が多い参加者 はそれを基準に自己流な行動が</u>

ページ	箇所	改訂前	改定後
		<p><u>い分を聴いてみましょう。キーワードは、その時「どんな気持ち・感情」で「どんなことを考えて」行動していたかです。</u></p> <p><u>その上で、「なぜ、良くない行動なのか」を理解させることが大切です。このやり取りを繰り返し、反復する忍耐力が、指導者には必要となるでしょう。</u></p> <p><u>また、集団の力を信頼して、参加者同士で「問題行動を注意しあう関係づくり」も大事になってきます。</u></p> <p><u>指導者は、日々の実践の中で参加者の「行動・態度を観察する力」「話を聴く力」「感情を受け止める力」「考えや思いを伝える力」「集団を活用する力」などを養い、高めていきましょう。</u></p>	<p><u>多い傾向があり、手順やルールを無視することも考えられます。ご本人の自尊心を傷つけぬよう配慮し注意を促します。一方、経験不足で必要な知識や技術、能力が低い「無知」</u></p> <p><u>な状態のまま行動することも非常に危険です。また、物事を甘く見る「軽率」な行動には危険がつきものです。大切なことは自分の「技量」を知ることで限界を超えた行動には注意が必要です。</u></p> <p><u>指導者は、集団の力を信頼し、参加者同士で「問題行動を注意しあう関係づくり」を構築したり、日々の実践の中で参加者の「行動・態度を観察する力」「話を聴く力」「感情を受け止める力」「考えや思いを伝える力」「集団を活用する力」などを養い、高めていきましょう。</u></p>
19	(3) 意識・感情	<p>チェックポイントをいくつかあげてみました。以下のような観点で、参加者を評価して<u>みましょう。</u></p>	<p>チェックポイントをいくつかあげてみました。以下のような観点で、参加者を評価<u>しましょう。</u></p>
21	(1) 服装	<p>②目：視界が<u>さまたげられてい</u></p>	<p>②目：視界が<u>さまたげられている</u></p>
26	③電車	<p><u>電車によって、活動場所まで移動するケースがあります。</u></p> <p><u>いくつかチェックポイントをあげてみました。</u></p>	<p><u>利用時のチェックポイントをあげてみました。</u></p>
26	④感染症	<p><u>「寄生虫」や「細菌」によるもの、インフルエンザやノロウイルス、<u>新型コロナウイルスのような「ウイルス」によるものが代表的です。</u></u></p>	<p><u>病原体である「寄生虫」や「細菌」「ウイルス」(インフルエンザやノロウイルス、<u>新型コロナウイルス等)が体に侵入して病状が出る病気です。</u></u></p>
29	②離岸流	<p>②離岸流</p>	<p>②離岸流(<u>リップカレント</u>)</p>
29	③一発波	<p>③一発波</p>	<p>③一発<u>大波</u></p>

ページ	箇所	改訂前	改定後
29	④ダンパー波	④ダンパー波 <u>海底が急斜面だと、波が一気に大きくなります。</u> 巻き込まれると海底にたたきつけられます。波の様子をよく観察しましょう。	④ダンパー波 <u>一気に大きくくずれてしまう波をダンパーといいます。</u> 巻き込まれると海底にたたきつけられます。波の様子をよく観察しましょう。
34	●水	当たり前ですが、 <u>川には水があります。</u> そして、水の中では人は息が出来ません。突然深みにはまったり、川の流れて川底に引き込まれたり、落水したときなどは、パニックとなり、1分もあれば溺死してしまいます。 <u>溺死しないようにするためには、PFD(Personal Flotation Device:ライフジャケット等の総称)を適切に着用するなど、最低限顔を水面から出すための工夫が必要です。</u>	当たり前ですが、水の中では人は息が出来ません。突然深みにはまったり、川の流れて川底に引き込まれたり、落水したときなどは、パニックとなり、1分もあれば溺死してしまいます。 <u>そのためには、救命胴衣(ライフジャケット)や浮力補助胴衣・PFD(パーソナルフローティングデバイス)を適切に着用するなど、最低限顔を水面から出すための工夫が必要です。</u>
34	●水が冷たい	水中では陸上にいるときよりも25倍の速さで体温を奪われ、体温が低下すると、 <u>ハイポサーミア(低体温症)</u> となります。	水中では陸上にいるときよりも25倍の速さで体温を奪われ、体温が低下すると、 <u>低体温症(ハイポサーミア)</u> となります。
34	●川の流れ	また、川に倒れこむ倒木や水制(テトラ)、岩の裏などに引っかかってしまうと、流れの力(水圧)で脱出できないところもあります。	また、川に倒れこむ倒木や消波ブロック、岩の裏などに引っかかってしまうと、流れの力(水圧)で脱出できないところもあります。
35	●水辺の安全	PFD 	<u>ライフジャケット</u> 
35	●水辺の安全	<u>PFDの着用は指導者の適切な判断に任せましょう。</u>	<u>ライフジャケットの着用に務めましょう。</u>
46	5. 磯遊び・ビーチコーミング・潮干狩り	満月と新月の前後は「大潮」といって、とくに干満の差が大きくなり、太平洋側では最大で2m以上も海面が上下します。インター	満月と新月の前後は「大潮」といい、特に干満の差が大きく、太平洋側では最大2m以上も海面が上下します。インターネットや新聞



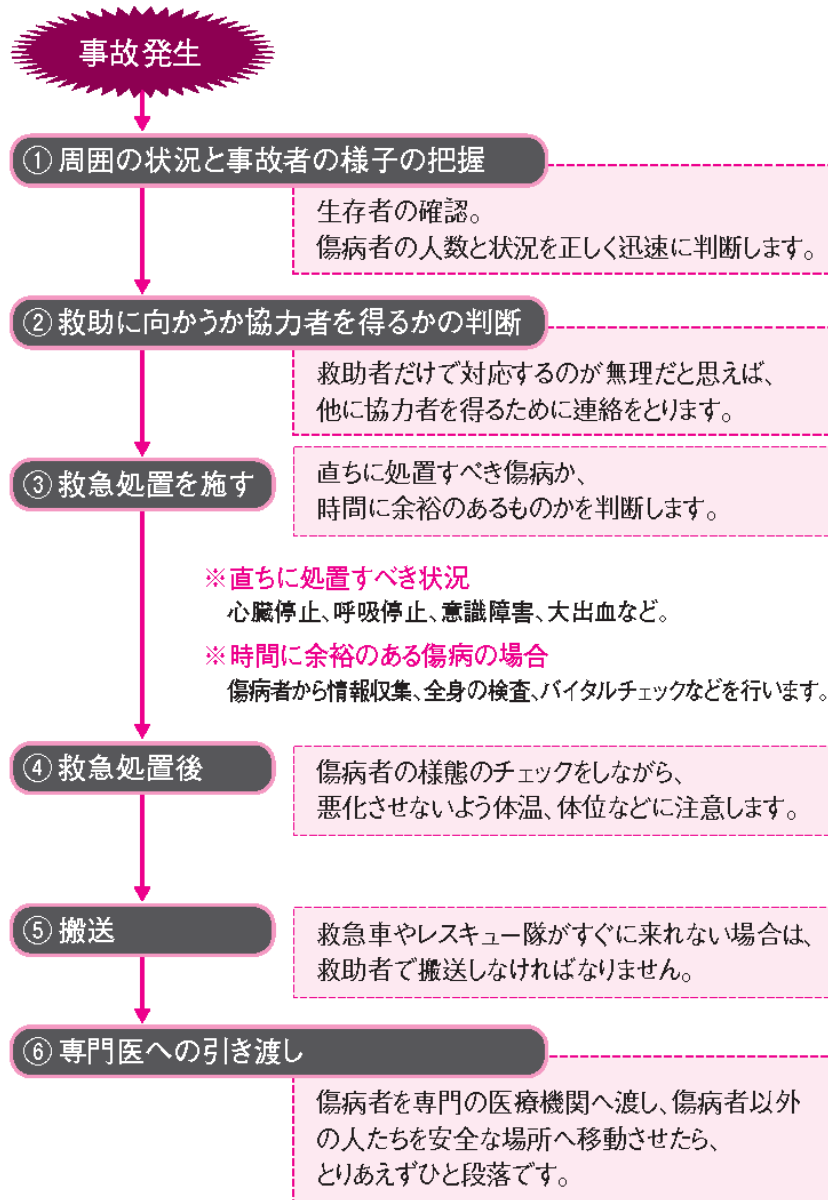
ページ	箇所	改訂前	改定後
		<p>ネットや新聞などで、その日の潮汐の時間と海面の高さを<u>あらかじめ調べ、安全な活動場所を判断</u>しましょう。</p> <p>波打ち際の活動では、<u>一発波</u>や高波にさらわれる危険性があります。波の様子や変化をたえず観察することが求められます。</p> <p>海岸では風の影響も<u>受けやすい</u>ものです。<u>海辺では、海と陸の温まり方の違いによって海辺特有の風が吹きます。日中は海から陸に向かって(海風)、夜間は陸から海に向かって風が吹く(陸風)傾向があります。</u>また、海辺では突然の風向きや風の強さの変化などにも、たえず注意を払いましょう。</p> <p><u>日ざしをさえぎるものがない海岸</u>では、熱中症と日焼けの<u>予防</u>を忘れてはいけません。帽子をかぶり、こまめな水分補給で熱中症を防ぎます。また、海辺では海面の照り返しもあり、大量の紫外線にさらされます。曇り空でも油断すると、重い日焼けを<u>負ってしまうことがあります。</u>ラッシュガードや肌の露出を小さくする衣服やローションなどで、十分な対策をしましょう。</p> <p><u>ゴミや漂着物も海岸の重要な危険のひとつです。ガラスの破片、釣具や空き缶などのほか、注射器や薬品のビンなど危険な廃棄物が漂着していることもあります。</u>また、死んで打ち上げられてもな</p>	<p>などでその日の潮汐の時間と海面の高さを<u>予め調べ</u>ましょう。</p> <p>波打ち際の活動では、<u>一発大波</u>や高波にさらわれる危険性があります。波の様子や変化をたえず観察することが求められます。</p> <p>海岸では風の影響も<u>受けやすく、海と陸の温まり方の違いにより海辺特有の風が吹きます。日中は海から陸に(海風)、夜間は陸から海に(陸風)風が吹く傾向</u>があります。また、海辺では突然の風向きや風の強さの変化などにも、たえず注意を払いましょう。</p> <p><u>日陰のない海岸</u>では、熱中症と日焼け<u>予防</u>を忘れてはいけません。帽子をかぶり、こまめな水分補給で熱中症を防ぎます。また、海辺では海面の照り返しもあり、大量の紫外線にさらされます。曇り空でも油断すると、重い日焼けを<u>してしまうことがあるので、ラッシュガードや肌の露出を小さくする衣服やローションなどで、十分な対策を</u>しましょう。</p> <p><u>海岸に打ち上げられた漂着物を収集したり観察するビーチコーミングも楽しい活動ですが、ゴミや漂着物も海岸の重要な危険のひとつです。ガラスの破片、釣具や空き缶などのほか、注射器や薬品のビンなど危険な廃棄物が</u></p>

ページ	箇所	改訂前	改定後
		<u>お、毒を失わない生き物がいます。むやみに手を触れないようにしましょう。</u>	<u>漂着していることもあります。また、死んで打ち上げられてもなお毒を失わない生き物がいますので、むやみに手を触れないようにしましょう。</u>
65	5. 危険な生物	近年、クマに襲われたり、スズメバチに刺される事故が増えています。	近年、クマに出会ったり、スズメバチに刺される事故が増えています。
67	ヤマカガシ(ナミヘビ科)	<u>体長は1m前後。毒を持っていることがわかりました。</u>	<u>体長は小さなものから1mに及ぶものまで、毒を持っていることが解ってきました。</u>
68	オオスズメバチ(スズメバチ科)	また刺激を与えるとされる黒い服や帽子、また甘い臭いや香水は避けることが重要です。人体に対する危険は、「 <u>アナフィラキシー・ショック</u> 」によるショック症状で、死亡に至る場合も度々あります。	また刺激を与えるとされる黒い服や帽子、甘い臭いや香水は避けることが重要です。人体に対する危険は、「 <u>アナフィラキシー</u> 」によるショック症状で、死亡に至る場合も度々あります。
78	4. 傷病者処置チャート	最終ページに記載	
79	6. 救急法	傷病者を速やかに救助し、正しい応急手当をして、医師に渡すまでが救急法の範囲です。 <u>《手当ての基本》</u>	傷病者を速やかに救助し、正しい応急手当をして、医師に渡すまでが救急法の範囲です。 <u>傷病者と会話が成立しない場合は意識がないと判断し直ちに119番に通報します。</u>
79	(1) 傷病者の観察	・傷病者に話しかけ、痛みの状況、～	・ <u>意識のある場合には</u> 、傷病者に話しかけ、痛みの状況、～
79	(3) 体温の維持	体温が高い時には、 <u>涼しいところ</u> に移して、積極的に冷却し、体温が低い時には、 <u>防寒着を加えて</u> 保温や湯たんぽで加温するなど、 <u>体温を正常時に保つ必要</u> があります。	体温が高い時には涼しいところに移して積極的に冷却し、体温が低い時には <u>毛布や洋服等を用いて保温</u> 、湯たんぽで加温するなど体温を正常時に保つ必要がありますが <u>急激な加温は避けて下さい。</u>
87	奥付	右記を追加	2023年4月再刷(一部修正)



P.78 「4. 傷病者処置チャート」

<改訂前>



<改訂後>

